

偶成ぐうせい
(朱熹しゆき)

少年易老學難成 一寸光陰不可輕

未覺池塘春草夢 階前梧葉已秋聲

少年しょうねん 老おい 易やすく 学がく 成なり難がたし

解説 偶成とは、特に題を設けないで偶然にできた詩をいう。この詩は歲月のたちや早く、学問の成就しがたいことをいい、一寸の時間をも惜しんで勉学に励まねばならぬと世人を戒めた勸学の詩である。

一寸いっすんの 光陰こういん 輕かろんず 可べからず

語釈 ※少年||わかもの。日本語の「少年」より年が大きい。

※一寸光陰||ほんのわずかな時間。※池塘||池の堤。※春草夢||春の草のような若い時代の将来の希望に満ちた心持。*階前||階段の前、すなわち庭さきの意。※梧葉||青桐あおとうの葉。※秋声||秋風の音。声は音。

未いまだ 覺さめめず 池塘ちとう 春草しゅんそうの 夢ゆめ

通釈 若者は年を取り安く、それにひきかえて学問はなかなか成就するも

階前かいぜんの 梧葉ごよう 巳すでに 秋声しゅうせい

のではない。だからほんの僅かな時間でも、いい加減にはいけない。池の堤に萌える春の草が夢を見ているうちに、庭さきに茂っている青桐の葉に、もう秋風がいつの間にか、しのび寄るのだ。